

平成 24 年度 第 2 回内灘町地球温暖化対策地域協議会 議事録

1. 日 時 平成 25 年 3 月 21 日 (木) 15 時 30 分～17 時 00 分
2. 場 所 内灘町役場 408 会議室
3. 出席者 委員 15 名
早川会長、源代委員、多田委員、清水委員、表井委員、西田委員、
八田委員、荒木委員、関委員、中委員、谷井委員、倉下委員、北川委員、
新委員、米田委員

事務局 5 名

北町民福祉部長、中宮環境政策課長、福島課長補佐、夷藤主事、
橋本囑託員

4. 内容

(1) 開会

(2) 協議事項

- ・内灘町の現状と今後の取組について
- ・その他

① 内灘町の地球温暖化対策に係る現状 (説明：事務局)

主に以下の内容について説明。

- ・花とみどりのある町づくり大賞
- ・町の「いしかわ版環境 ISO」登録・認定状況
- ・平成 24 年度地球温暖化対策関係予算執行状況

② 平成 25 年度同予算について

【質疑応答】

Q (委員)

家庭版 ISO について石川県の目標は書かれているが内灘の目標値も書くべきだ。

サンセットカードを利用するなど参加を実感できる政策をとるべきだ。

A (事務局)

町の目標を次回の会議で示すようにしたい。

サンセットカードの利用については商工会とも相談したい。

Q（委員）

町民環境フォーラムをなぜ紹介していないのか。環境政策課から補助金の出ている事業なのでここで出すべきだ。

A（事務局）

現状報告では主に環境政策課主体の事業を掲載したもので、環境フォーラムについては次回から報告したい。

Q（委員）

ペレットストーブは燃料の調達が難しく内灘には適さないのではないか。

A（事務局）

ペレットストーブは化石燃料を使用しないため、CO₂ 発生の抑制に効果があることから、補助の対象としている。

Q（委員）

バケツ型の簡易式生ごみ処理器は複数あれば使いやすく普及させやすい。1世帯当たり2個までにはできないか。次の申請まで3年という縛りも短くしてほしい。

A（事務局）

今後部内で検討していきたい。

Q（委員）

生ごみ処理器を普及させると作ったたい肥に余剰が出てくるので、この問題を解決しないとさらなる普及は見込めない。公民館などで回収できないか。

A（事務局）

関係機関と協議していきたい。

Q（委員）

新エネ・省エネシステムの設置件数について補助金を出したもののしか把握していないのはよくない。把握するようにすべきだ。

A（事務局）

難しい課題かと思うが、何らかの方策がないか検討したい。

Q（委員）

平成24年度の家庭版の新規認定件数で、県全体に比べて内灘町の伸びが鈍いのではないか。

A（事務局）

町では今後より積極的に本制度をPRしていきたい。

（会長）

内灘町では平成23年度まで県全体のペースを上回って認定がされていたため、平成24年度はその反動で伸びが鈍ったと思われる。

（委員）

県ではエコチケットの効果と県民への浸透があったと考える。

これからも普及については学校等を通じて積極的に取り組んでいきたい。

Q（委員）

家庭版ISO認定のすそ野を広げるには女性会等に積極的に働きかけをしてほしい。エコチケットは使える店舗が限られているため家計を預かる女性の参加を促すことにはつながりにくい。

A（委員）

エコチケットはコンビニなど利用できる店を拡大する方向で検討がされている。

（委員）

町連合女性会では家庭版環境ISOアクションプランへの取り組みについては、平成25年度も続けるつもりだ。

平成24年度は約400件分を町女性会から県連合会へ提出した。11月に開催した町民環境フォーラムでは女性会の身近な取り組みを紹介した。

Q（委員）

ゴミの削減でエコファミリーに登録できるか。

A（委員）

アクションプランの取り組みの中にごみの削減項目もあるので、できるところで取り組んでほしい。

Q（委員）

エコキュート・エコジョーズに補助金を出すよりも内灘版エコチケットを出すなど、町民全体が取り組みやすいことに予算を回した方がよいのではないか。

Q（委員）

補助金を一度やめ、町の街路灯や公共施設の電灯のLED化のほうが効果があるのではないか。

A（事務局）

少しでも新エネ・省エネシステムの普及が進むようにという趣旨で進められている。平成25年度予算はこのメニューでスタートするが内容の変更は今後検討する。

（委員）

金沢医科大学でも積極的に省エネに取り組んでいるが、空調部門の使用量が大きいのでLED化だけでは大きな削減につながっていない。

Q（委員）

森林ボランティアではペレットに余りがでてきた事が問題になっている。個人だけでなく企業や公共施設への導入を検討してほしい。

A（事務局）

ペレットストーブの普及について県とも連携していきたい。

Q（委員）

助成金の品目は費用が掛かるものが多い。LEDなどもっと安い、家計負担の少ない品目にすべきだ。

A（事務局）

高額な機器の導入に少しでも助成をし、省エネルギーにつなげたいという思いである。

Q（委員）

県が進めるエコドライブの取り組みは、ガソリン価格が高騰する今日、環境だけでなく家計にもやさしい取組として町も積極的に推進すべきである。

A（事務局）

町も今後取り組んでいく。